

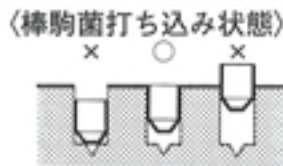
じょうずななめこの作り方



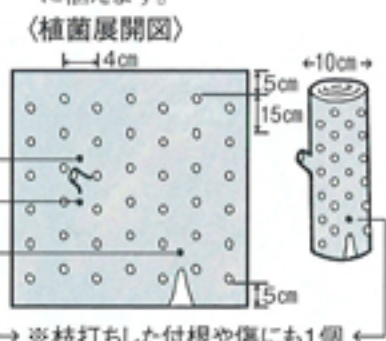
- 伐採**
- 紅葉が3分~7分の頃か、成長の止まった休眠期に伐採し、1ヶ月以上干す。
 - 常緑広葉樹は晩秋から春の彼岸の頃までに伐採し、1ヶ月以上干す。
 - 作業上同時に玉切りした時は井桁に組み、10日位干す。
 - ※日の当たる所は遮光ネットをかける。

- 玉切り**
- 切り口に細かいひび割れが入った頃90cmに玉切りする。
 - ※その日のうちに植菌する。
 - 短木栽培する時は、切断面が一致する様に印をして15cm位に玉切る。
 - オガクズ菌短木栽培する時は、きれいなオガ屑を取っておき植菌に使う。

- 植菌**
- ヨシノザクラが満開になるまでに、φ8.5mmの穴をあけ棒駒菌を打ち込みます。

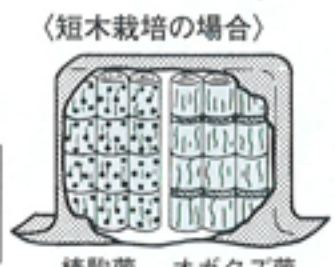
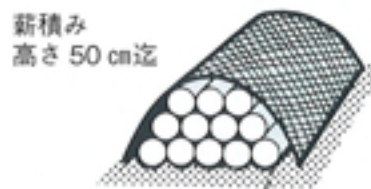


- 仮伏せ**
- 植菌数の目安は原木直径cmの4倍以上の個数
 - 列は、片方の木口から5cm程離れた所から約15cm間隔に植えます。
 - 列の間隔は4cm程とし千鳥状に植えます。



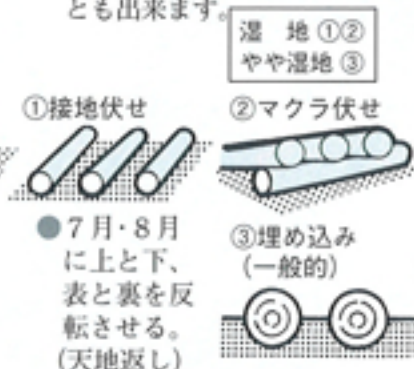
- 棒駒短木栽培**
- 植菌数の計算法
- 木口は片面にだけ直径cmの半数個以上
 - 側面は直径cmの同数個以上

- 植菌した菌を原木に充分活着させる
- 直射日光が当たらない所。
 - 植菌後十分に散水して菌の活着を促し蔓延させる。
 - 雨の当たる所。
 - ※コモ・ムシロ等で被いをする。
 - 植菌後、保湿につとめ3週間程は散水し、その後は晴天が1週間も続く様なら散水する。



- 短木栽培の場合**
- 棒駒植菌は、植菌面を上にして重ね、最上の短木だけ逆さまに重ねる。
 - 仮伏せ中は短木を動かさない。

- きのこの発生を促す
- 長木栽培は4月下旬~5月上旬頃。
 - 乾き気味の所では、ホダ木を半分ほど埋め込みます。
 - ※長木栽培で十分に菌が蔓延・活着したホダ木を短木に切断して短木栽培することも出来ます。



- 7月・8月に上と下、表と裏を反転させる。(天地返し)
- 棒駒短木栽培は9月中旬。
- オガクズ菌短木栽培は、6月下旬~7月上旬頃。
- 接種面を上にして、1玉づつ9分目まで土中に埋めて充分散水する。
- コモ・ムシロ等で被う。



- 発生**
- 翌年の秋から本発生。
 - 発生1ヶ月位前になったらコモ・ムシロ等をはがし、3日おき位に散水する。樹皮の厚い樹や強靱な樹(サクラ)などは、ナタ等で傷を付け、キノコの発生を促す。
 - 短木栽培はコモ・ムシロ・寒冷紗等で小屋がけをする。



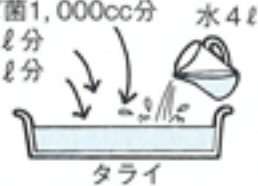
- ※発生前(9月上旬)にコモ・ムシロ等を除き、切りワラ等で2cm程被う。
- 発生時期以外は本伏せと同じ管理。

- 植菌用資材**
- ドリルビット・ストッパー付 (8.5%・12.0%)
 - 六角軸ドリルビット・ストッパー付 (インパクトドライバ用 8.5%)
 - 植菌用ポンチ
 - ポンチ替刃
 - 封ろう (原木 約30本分)
- 栽培用資材・薬剤**
- きのこ日避けネット 85
 - きのこ用ベンレート水和剤

オガクズ菌短木栽培

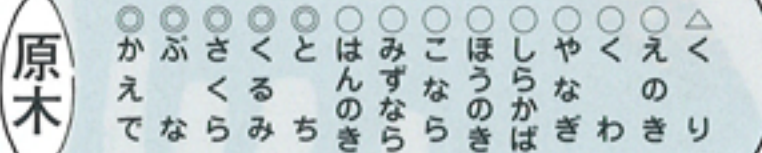
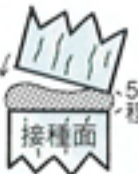
短木の面積が0.5坪(タタミ1枚分)の場合、下記の要領で行なう。

オガクズ菌1,000cc分
オガ屑4ℓ分
米ぬか2ℓ分



- タライの中でよくまぜる

- 手で握りしめて指の間から水が少しにじみ出る程度の分量にする。
- 手で混合物を木口になすりつける。
- 2玉1組で切断面が一致するようにサンドイッチ状に重ねる。



※その他:「きのこ栽培敵樹表」参照

月	0	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
発生推移	伐採
	玉切り植菌
	仮伏せ
												発生

日農 日本農林種菌株式会社

〒410-1118 静岡県裾野市佐野464の1 電話 (055)992-0457 FAX (055)993-0692
http://www.kinoko-nichino.com

※掲載されている全ての内容は弊社の承諾なしでの無断転載を禁じます。